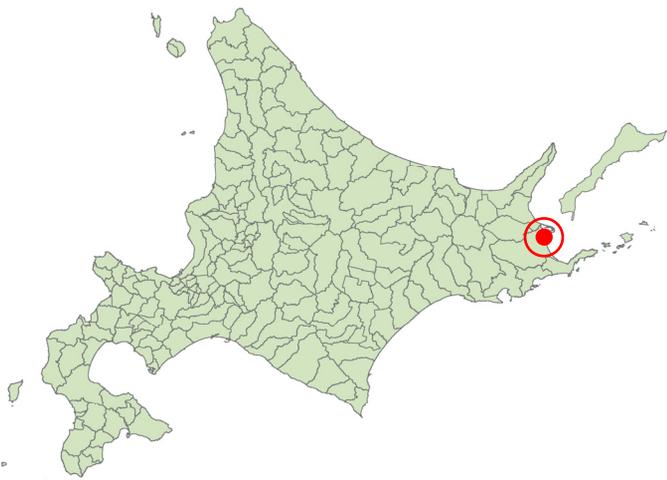




別海町尾岱沼地区について

北海道別海町は北海道東部に位置する。地名の由来は、アイヌ語「ペツ・カイエ」（破れ川または折れ川）を意識したものである。地域漁業の主力は、サケ、ホタテ、ホッキ、アサリ、ホッカイベジ等が主力の沿岸漁業であり、町内には野付漁業協同組合と別海漁業協同組合がある。

活動組織が干潟保全を図る尾岱沼とは野付湾のことをいう。野付湾は、砂嘴である野付半島によって根室湾と隔てられた内湾である。湾内の平均水深は1~2mと浅く、アサリの主漁場となっている。また、アマモ藻場が形成され、ホッカイベジの打瀬網漁が行なわれている。



干潟等の保全活動



害敵生物の除去作業



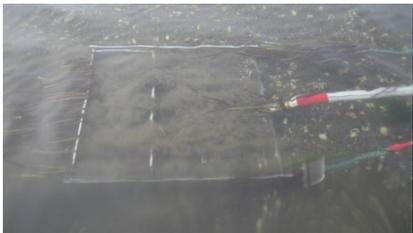
ツブによるアサリの補食



アマモの除去作業



除去したアマモ



噴流式マンガンによる耕耘作業



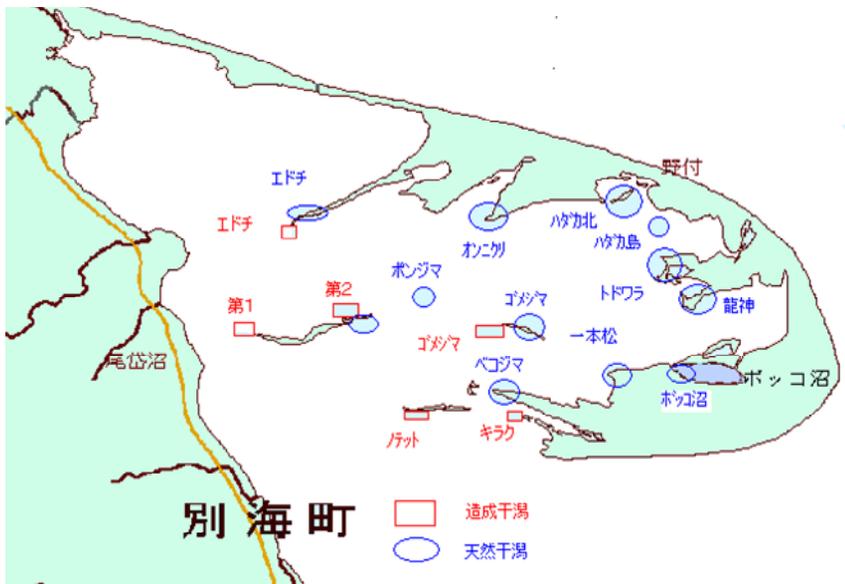
モニタリング調査

野付地区干潟保全会の活動について

「野付地区干潟造成保全会」は、野付湾内で干潟の保全活動を実施し、干潟に存する地域資源（アサリ等）の維持に取り組んでいる。

- 設立：平成 21 年 8 月 31 日
- 体制：現在の会員数 336 人

活動内容
干潟の機能低下を招く生物の除去（ツブ、タマガイ、アマモ）
浮遊堆積物の除去（外敵生物の卵などが付着したアマモ等）
噴流式マンガンを用いた耕耘
モニタリング調査（アサリ資源量や生息状況、稚貝発生量等）



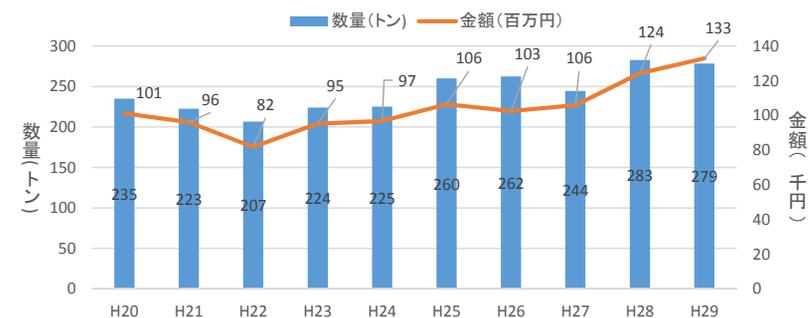
干潟等の保全効果について

本地区では地元の小・中学生に対する出前授業を行っている。アサリの移植作業実習等を通じ地域の漁業に関心を持ってもらうとともに、環境保全の大切さを知る良い機会となっている。



地元中学生に対する出前授業

野付漁協のアサリ水揚数量と金額の推移を見ると、保全会の設立年以降、数量、金額ともに増加傾向を示し、安定している。水揚数量は H28 に 280t、金額は H29 に 1 億 3 千万円を上回っており、漁業者が実施している干潟の保全活動の効果が発揮されている。



野付漁協のアサリ水揚数量・金額の推移